

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成28年7月28日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 経済学研究科

職 名・学 年 講 師

氏 名 井 上 恵 美 子

助 成 の 種 類	平成28年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	2016年国際エコロジー経済学会大会 The International Society for Ecological Economics (ISEE) 2016 Conference		
発 表 題 目	EU ETS and innovation activities: An empirical analysis of the impact of the EU ETS on innovation activity		
開 催 場 所	University of the District of Columbia (Washington D.C., USA)		
渡 航 期 間	平成28年 6月 25日 ~ 平成28年 7月 1日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	300,000 円	
	使用した助成金額	300,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	航空運賃代、交通費:	259,800 円
		学会参加費:	\$533
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は、ご助成頂きまして誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。		

## 成果の概要／井上 恵美子

学会名：The International Society for Ecological Economics (ISEE) 2016 Conference

開催場所：University of the District of Columbia (Washington D.C., USA)

### 1. 国際研究集会

6月26日～29日に University of the District of Columbia (Washington D.C.)で開催された ISEE 2016 は、“*Ecological Economics*”という環境経済学やエコロジー経済学の分野においてレベルの高い国際学術雑誌を発行している学会“The International Society for Ecological Economics”が開催している国際研究集会である。

Washington D.C.という地の利を活かしたミシェル・オバマさんのオープニングプレナリーをはじめ、第一線で活躍されている研究者のプレナリーレクチャー、先駆的な興味深い研究が多く報告されたパラレル・セッションなどで構成され、内容が充実した学会であった。

### 2. 研究報告

28日の午後のセッションで、研究報告(タイトル：“EU ETS and innovation activities: An empirical analysis of the impact of the EU ETS on innovation activity”)を行った。イノベーションは、気候変動問題を解決する方策の一つとしてますますその役割に注目が集まっているが、本研究は、EU諸国を対象に行われている排出量取引制度(以下 EU ETS) がイノベーションを生み出すイノベーション活動にどのような影響を与えるのか、EU企業を対象に分析を行っている。データセットは、“Carbon Disclosure Project”、“EU Industrial R&D Investment Scoreboard”などにに基づき構築した企業レベルのパネルデータを用いている。内生性の問題に考慮して、2つのダイナミックパネルモデルをシステム GMM という手法を用いて分析した結果、EU ETS がイノベーション活動にプラスの影響を与えていることが明らかになった。具体的には、EU ETS に対応するための戦略を持っている企業、もしくは、まだ EU ETS の対象企業ではないが、将来的に対象となる可能性があるために事前に対応しておこうと考える企業は、イノベーション活動をより積極的に行う可能性が高いことが明らかになった。これは、EU ETS に対して将来の戦略を考えて対応していく中で、企業がイノベーション活動の重要性を認識したからではないかと考えられる。

これまで、「EU ETS は、イノベーション活動にプラスの影響を与えない」と報告する先行研究 (Gagelmann and Frondel, 2005; Schleich and Betz, 2005 など) が多かったが、本研究は、オリジナルのデータセットを用いて、EU ETS のイノベーション活動へのプラスの影響を明らかにした点で学術的な意義があり、また本結果から導かれる政策的インプリケーションは環境政策の策定プロセスにおいて貢献する要素を提示している。

セッションでは、環境経済学やエコロジー経済学の分野において第一線で活躍する研究者から貴重な指摘や意見を頂くことができた。それらの指摘から、研究の精度を高めるためのアイデアを得ることができて有意義であった。また、環境経済学やエコロジー経済学の分野の最新研究動向を捉えることができたこと、共同研究の提案を頂いて将来の研究交流の可能性を得ることができた点でも有難かった。以上のように今回の国際研究集会 ISEE 2016 への参加は、今後の研究キャリアにおいても意義があった。

### 3. 謝辞

今後の研究において重要となる視点を得ることができたこの貴重な機会を与えて頂いた公益財団法人京都大学教育研究振興財団に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。